

堅調な国内景気などが ニュージーランド・ドルの下支えに

ニュージーランドの物価の伸びが引き続き鈍いことに加え、米長期金利の上昇を背景とした米ドル高などから、2018年2月以降、ニュージーランド・ドルは軟調となっています。

ニュージーランドでは、新政権が実施した高等教育の無償化による教育部門の下落のほか、これまで物価上昇をけん引してきた建設部門の鈍化などが影響し、2018年1-3月期の消費者物価の伸びが、前年比1.1%と、2017年10-12月期の同1.6%から鈍化しました。そのため、政策金利は、過去最低の1.75%で据え置かれています。ニュージーランド準備銀行(中央銀行)のオア総裁は、2018年5月の金融政策委員会後に発表した声明で、インフレ率が政策目標の中間値(2%)を下回っているため、インフレ率が十分に上向くことを確認するまで、しばらくの間、政策金利を据え置くことを示唆しました。

ただし、ニュージーランド経済については、移民や女性、高齢者の労働参加が進んでおり、消費が活発化していることに加え、金融緩和政策や政府支出の拡大などを背景に堅調となっています。また、ニュージーランドの主要輸出品である乳製品については、猛暑の影響により生産量が減少したものの、バターや全粉乳などの乳製品の国際取引価格は上昇傾向にあります。このため、2018年度(2017年7月～2018年6月)における乳製品輸出額は、増加が見込まれており、国内経済を下支えすると期待されます。今後については、住宅市場の過熱の沈静化のために導入された、外国人の不動産物件の購入制限などが、引き続き物価を抑制するとみられていることに加え、米国とニュージーランドの政策金利の逆転が予想されることから、ニュージーランド・ドルに下押し圧力がかかりやすくなる可能性があります。しかし、堅調な国内経済と乳製品の貿易が、ニュージーランド・ドルの下支えとなることが期待されます。

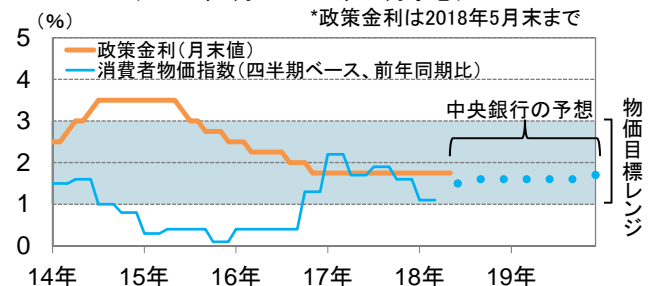
ニュージーランド・ドルの推移

(2016年1月初～2018年6月8日)



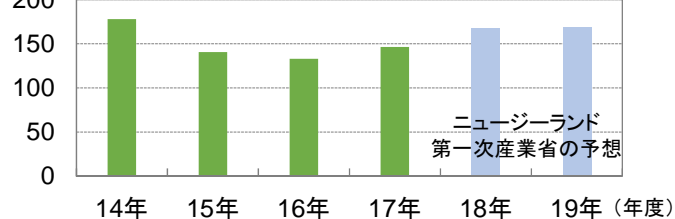
NZの政策金利とインフレ率の推移

(2014年1月～2019年12月予想)



NZの乳製品輸出額の推移

(億NZドル)(2014年度～2019年度予想) ※年度は前年7月～6月



(ニュージーランド準備銀行および第一次産業省など信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。